

会議録要旨

(1) 会議の名称	令和元年度(第1回)国民健康保険運営協議会
(2) 開催日時	令和元年8月30日(金) 19:30~20:30
(3) 開催場所	あわら市役所 101会議室
(4) 出席委員氏名	白越 不朝 委員、林 明美 委員、佐々木 誠三 委員、真杉 智枝美 委員、 坂野 彰 委員、坂井 寿範 委員、西野 暢 委員、池田 美由 委員、 赤尾 政治 委員、北浦 博憲 委員、徳丸 敏郎 委員、大井 尚美 委員 (計12人)
(5) 欠席委員氏名	なし
(6) 出席所管課職員	糠見 市民生活部長 【市民課】 山田(課長)、矢部(課長補佐)、高橋(主査) 【税務課】 江川(課長) 【収納推進課】 山下(課長)
(7) 傍聴人	なし
(8) 会議議題	・平成30年度あわら市国民健康保険特別会計歳入歳出決算について
(9) 配付資料	・国民健康保険運営協議会資料
(10) 会議内容の要旨	<p><u>平成30年度あわら市国民健康保険特別会計歳入歳出決算について</u></p> <p>委員 3ページの累積赤字のところ、実質単年度収支は黒字になっているのに、累積赤字が増えているのはどういうことか。</p> <p>事務局 表記の仕方が分かりにくくなっている。下のグラフを見ていただき、線から下のところが累積赤字で、線から上のところは黒字となっている。現状は赤字ではない。</p> <p>委員 4ページの国民健康保険税の税率改定のところで、今年度4月からの医療費分の資産割は15%だが、令和3年度からの医療費分の資産割は、廃止するという理解でよかったか。</p> <p>事務局 来年度に県の運営方針が見直される予定。それに基づき、あわ</p>

	<p>ら市も令和3年度からの3年間にかけて資産割の廃止に向けた検討をしていく。</p>
委員	<p>受診率は30%台を維持しているが、なかなか国の60%には厳しい数字である。県内ではどれぐらいのレベルに位置しているのか。</p>
事務局	<p>30年度については、他市町の状況はまだ公表されていないが、29年度は、9市のうち5番目である。県の平均は32.9%であり、県平均より低い状況である。小規模保険者の方が、受診率が高い傾向にある。</p>
委員	<p>全国的な問題でもあるが、年間一人当たり600万ぐらいかかる人工透析予備軍を減らすために、受診者を増やしていただくことを期待したい。</p>
委員	<p>国保加入者数が減少し、財政状況が黒字であるにもかかわらず一般会計から繰り入れているのはどうしてか。</p>
事務局	<p>一般会計からの繰入金は、すべて法定で認められている部分について繰り入れを行っている。赤字補填のために一般会計から法定外の繰り入れを行っている市町もあるが、あわら市では、24年度の税率改定時に、税の負担を緩和する目的で、1億円の法定外繰り入れをしたが、それ以外はすべて法定で認められた繰り入れを行っている。</p>
事務局	<p>従来为国・県負担定率50%に加え、今回の国の法改正で、国から毎年3億4,000万円の公費が投入されている現状の中で、法定外繰入により、更なる公費負担をするのは問題があるということで、国の努力者支援制度において、法定外繰入をした場合は、今後マイナス評価が取り入れられる予定である。その点では、あわら市は安定した財政運営を行っている。</p>
委員	<p>2ページの歳入のところの国民健康保険税が、29年度と比較して、滞納繰越分で870万円の減となっているが、滞納繰越額そのものが全体的に減ってきているのかを教えて欲しい。</p>
事務局	<p>賦課課税側から、世帯数・被保険者数の減少とともに、30年度の滞納繰越分の調定額は、29年度よりも約1,000万円減っている。</p> <p>収納側から、滞納繰越分の収納率は若干下がっているものの、徴収員の方々のきめ細やかな関わりもあり、現年度分の収納率もあわせると、0.01ポイント向上している。</p>
委員	<p>滞納の分は、長年の繰り越しみたいなのはあるのか。</p>
事務局	<p>あるが、個別の事情に応じて納付誓約書の聴取や分納相談などを行っている。徴収員の努力もあり、収納率は毎年改善し</p>

	<p>ている。現年度分を翌年度に繰り越さないよう差し押さえなども行っている。</p> <p>現年度の収納率は96%を超えた。このことによって、特別交付金として400万円多く補填がある。</p>
--	--